

冬下刈の取り組みについて

～成長期前後における植栽木の成長量等の検証～

近畿中国森林管理局 岡山森林管理署 森林整備官 ○柴田 和紀
造林対策官 ○安田 真菜

1 課題を取り上げた背景

下刈作業は一般的に夏に実施しますが、近年は全国的に記録的な猛暑が続いており、炎天下での下刈作業には熱中症対策が欠かせません。また、スズメバチやマムシ、マダニといった危険生物が活発に活動する時期でもあり、その安全対策も必要です。



(写真1) 冬下刈作業の様子

岡山森林管理署では、これらの危険を回避するとともに、労働負担の軽減や労働安全性の向上を図る観点から、7月～8月を避けて下刈作業を実施する冬下刈を試行しています（写真1）。

実際に冬下刈を実施した事業体への聞き取り調査を行ったところ、「身体への負担が軽く、作業効率が上がる」など評価する意見もありましたが、「植栽木が雑草木に被圧され枯死するのではないか」など疑問視する意見もありました。

そのため、冬下刈実施区域における植栽木の樹高成長量や枯死の有無を調査することにより、雑草木が繁茂する夏季以外に下刈を実施した場合でも、植栽木は枯死せず成長するのか検証することとしました。

2 取組の経過

県内3国有林に調査地の設定及び調査木を選定後、冬下刈実施前のR5.5月～11月及び冬下刈実施後のR6.5月～11月の期間において植栽木の樹高調査と定点撮影を1カ月毎に行いました。

3 実行結果

雑草木の少ない5月から7月にかけては一定の成長が見られ、周囲の雑草木と競合している7月から11月でも緩やかに成長することが確認できました。

また、植栽木の枯死は確認されませんでした。

4 考察

調査結果から、冬下刈でも植栽木は枯死することなく成長することがわかりました。

冬下刈実施後は雑草木に被圧される夏までの間に一定の成長が確認できたことから、植栽木は枯

死せず成長するのかという疑問を解消する結果が得られました。

これらのことから、「労働安全性」や「植栽木の成長」など、どの視点に重きを置くのかにより下刈時期を夏季に限定せず、冬下刈を下刈方法のひとつの選択肢として考えてよいのではないかと考えます。

(表) 夏下刈・冬下刈のメリットとデメリット

	夏下刈	冬下刈
メリット	・植栽木の成長促進 ・下刈実施後の雑草木の再生力低下	・労働安全性の向上 ・身体への負担軽減 ・誤伐リスクの低下
デメリット	・炎天下での作業による生命の危険 ・危険生物 ・林業従事者の離職のきっかけ	・夏下刈に比べて植栽木の成長が遅れる可能性 ・下刈回数が増える可能性